

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年 5月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4077100081
法人名	社会福祉法人 清新会
事業所名	グループホーム ふる里
所在地 (電話番号)	福岡県糸島郡二丈町大字深江 2359-2-2 (電話) 092-325-2333

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋2-2-51		
訪問調査日	平成20年5月15日	評価確定日	平成20年6月10日

【情報提供票より】(20年 4月 15日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤	10人, 非常勤 5人, 常勤換算 14人

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / 単独	新築 / 改築
建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	1階建ての	1階 ~ 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,200 円	その他の経費(月額)	12,600 円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,260円	

### (4) 利用者の概要(4月15日現在)

利用者人数	18名	男性	0名	女性	18名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.9歳	最低	75歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福吉病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自然に恵まれ、海山の景観や季節の移り変わりを身近で感じられる環境に建てられている。母体の老人保健施設等との連携を図り、地域への啓発を行なうとともに、ホーム内は利用者に居心地良く過ごしてもらえるよう家庭的な雰囲気を大切に作られている。職員は利用者の思いや希望の把握を心掛け、本人の意に沿ったペースを尊重した支援を行い、また、利用者それぞれの役割を見出し見守ること、自立支援を念頭に置いている。調査時にも利用者の生き生きとした表情や多くの笑顔が見られたり、笑い声が聞こえたりし利用者や職員とが一体となった穏やかで明るい生活を送っている印象を受けた。地域ボランティアの協力を通して地域との関わりが増え、地域密着を意識した取り組みを積極的に行なっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、地域とのつきあい、権利擁護に関する制度の理解、職員の育成などであり、ミーティングや会議時に、提案事項について協議し、質の向上に取り組んだ。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	外部評価の意味を職員全体で理解した上で、職員全員で、自己評価に取り組み評価されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1回、利用者・家族代表、民生委員、地域包括支援センターなどの参加を得て開催されている。利用者の状況やサービスの実際、ヒヤリハット報告、参加者の相互の意見交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族面会時の声掛けや家族会、運営推進会議の開催時を利用した意見聴取などが行なわれ、些細な要望・苦情に関してもその都度各フロアの職員で話し合うなどの取り組みがある。また、ほとんどの家族が月1回来訪されており、利用者一人ひとりの健康状態や生活状態、金銭報告を行なっている。日頃の様子や外出時の様子は写真にして、ホームの壁に掲示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の自治会や老人会は参加していないが、地域で開催される行事や地元ボランティアの協力を通して、積極的に地域との関わりを持つよう努力されている。また中学生ボランティアの来訪もある。昼夜を想定した避難訓練等に地域住民が参加されるまでには至っていないが、今後、運営推進会議等を通して働きかけていく予定である。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ふる里と共に『住み慣れた地域で一人ひとりが育んできた暮らしの継続・・・』という具体的に分かりやすく表現した事業所独自の基本理念をつくりあげ、日々のケアに活かしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関や食堂などに理念が掲示されており、違和感なく自然に目に入る工夫がある。全職員は日々のケアを通じて理念の共有と実践に向けての統一を図っている。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に民家は少ないが、散歩時に挨拶を交わしたり地域ボランティアの協力により、利用者との馴染みの関係ができています。また、事業所が地域に浸透するように、地域活動の行事も積極的に参加しています。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が意見を出し合い管理者がまとめ自己評価を作成している。管理者・職員とも自己評価や外部評価を行なう意義の理解ができており、日々の業務を見直す好機と捉えて改善に活かし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、家族代表、民生委員、地域包括支援センター職員などの参加があり、利用者の暮らしぶりやサービスの実際、行事報告、参加者からの意見を聴いたりし、サービスの質の向上に活かしている。		

グループホーム ふる里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社会福祉協議会担当者とは気軽に情報交換を行なっている。行政に対して必要な連絡や調整は行なっているが、積極的な働きかけには至っていない。		市町村の方にも現場に足を運んで頂き、現状を把握してほしいとの思いを今後もお願いし続けると共に、ホームからもどんどん市へ足を運び事業所の広報誌を配布したり相談するなど協力関係を築く努力を期待したい。
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会に参加し、管理者や職員は地域権利擁護事業や成年後見制度に関する制度を理解し、必要な人に支援ができるようパンフレット等を整備している。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭出納帳を領収書と共に閲覧し報告をしている。来訪できない家族には電話にて報告している。また行事などについては、季刊誌「ここにこ便り」で知らせている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族来訪時には積極的に意見を聴くよう声掛けに努めている。また、年4回家族会を開催し、意見や要望等が言いやすいような雰囲気作りを工夫している。問題や課題等は全職員で共有し、解決する仕組みを整えている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は馴染みの職員が対応することが、重要だと認識しており、ユニット間の職員もなるべく固定化し、異動も最小限に抑えるよう努力している。職員が移動する場合は、引継ぎ期間を十分に設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用には事業所に適した人材を求めており、本人の能力を重視している為、性別や年齢等を理由に採用の対象から排除することはない。希望に沿った休暇や研修会など、職員の自己実現や社会参加に対する配慮がある。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>理念をもとに、利用者の人権を損なわないよう日々の介護の中で利用者一人ひとりの人格を尊重した介護を実践している。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>希望する外部研修や勉強会に参加ができ、受講後は書面やミーティング等にて伝達研修を行なっている。また段階に応じて新任、現任職員の年間計画を作成し、全職員が共有できるようなシステム作りができています。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他の事業所からの見学は積極的に受け入れているが、ネットワーク作りや勉強会等の取り組みは今後の課題である。</p>		<p>地域の同業者と情報交換や相訪問などを行い、相互評価や勉強会を開催することにより新たな発見や気づきの機会となり職員の育成の場となる。今後、よりサービスの質の向上を目指す為、他事業者との交流を積極的に行うことが望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に、見学や職員による自宅訪問を行なっている。サービス利用開始時は利用者の意向やペースを尊重し、本人が場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀れを共にし、本人から学んだり支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者と一緒に過ごす中で、一人ひとりの気持ちを受け止め理解しようと努力している。また利用者の得意分野で力を発揮できるような場面作りや声掛けを行い、互いに支えあう関係を築いている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>基本調査やアセスメントのみならず、日常の会話や表情から利用者の希望などを把握し、また家族との会話や相談の中から、本人本位の暮らし方ができるように支援している。</p>		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画担当者を中心に現場職員の気づきや意見をもとに話し合い、また主治医が参加できない場合は照会内容を依頼するなど、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>		
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しをはじめ、状況の変化に応じて随時見直しを行なうなど、現状に即した計画が作成されている。また、毎月のモニタリングや職員のミーティング等でも、各利用者の状況が確認され見直しに活かす取り組みがなされている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設する老人保健施設の理学療法士からリハビリのアドバイスや指示を受けるなど事業所の機能を活かした支援がなされている。また、本人や家族等の状況に応じて、通院・外出時の送迎など必要な支援を行なうなど、柔軟に対応している。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医の受診となっている。通院介助も状況に応じて臨機応変に行い、本人の症状など主治医に報告したり、電話で受診の結果を家族に伝えるなど、情報が正確に伝わるようにしている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の在りかたについては、入居時に同意書が交わされている。できる限り利用者や家族の意向に添えるよう家族・医師・看護師・職員等と連携を図り、終末期における医療処置と対応、方針を共有している。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1.その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	毎日の生活の中でプライドを傷つけないような声掛けや態度で接している。また書類は事務室に管理し、職員以外の人の目にふれないようきちんと保管している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重している。全職員が常に利用者を選択肢を与え、自己決定できるような環境作りを心がけている。利用者同士の関係の中でのペースも大事に見守っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と共に食卓を囲み、和やかな雰囲気の中で食事を行なうなど、楽しむことができる支援がなされている。また、準備や後片付けも利用者と職員が行っている。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができる体制をとっており、利用者のその日の気分や希望に沿っての入浴ができるように支援している。また入浴拒否が続いた場合は、声掛けやタイミングを見計らいながら、清潔保持につとめている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物を干したりたたんだり、料理の下ごしらえなど利用者の思いを尊重しながらその方に応じた役割をもつていただくよう支援している。また、菜園作りが好きな方、歌が好きな方がイベントの祭に挨拶するなど、本人の能力が発揮できるように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	お寺参りをしたい方、買い物を希望される方など外出や散歩は随時要望、必要時に臨機応変に対応している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害について理解しており、外出傾向があれば、その都度職員と一緒に外出するなど利用者の自由な暮らしを支える取り組みがある。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体として年間計画に基づき、避難訓練をおこなうと共に、ホーム独自でも消防署の立会いの下、利用者と共に避難訓練を行なっている。職員全員が災害マニュアル、緊急時の連絡体制、避難訓練の場所など確認できているが、近隣の協力を得られるまでには至っていない。		運営推進会議でも地域の方に協力を呼びかけ、近隣の協力が得られるような取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士がカロリー計算を行っており、栄養バランスがとれている。食事摂取量や水分摂取量を個々に記録し把握している。また、その人の疾病や状態にあった調理方法や内容を考慮したり、ミキサー食、おかゆ等、個人別に対応している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼食堂は自然の日差して明るくソファや畳を配置し、テレビを見たり皆が集えるように工夫している。また廊下には行事や外出時の写真を掲示し、楽しく居心地のよい場所となっている。玄関は季節感のある鉢植え等やベンチを設けており、天気の良い日は日向ぼっこしたり、体操したりなど楽しめるよう工夫をしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のクローゼット・ベッド以外の必要物品は、利用者・家族が持ち込まれた物で、使いなれた筆筒や小物など慣れ親しんだ数々の物が配置され、それぞれ個性的で居心地よく過ごせる工夫がなされている。		